

2. 2 研究論文・小論文の書き方（国語分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

獲得した情報を理解し、論理的に考察・分析し、その成果を文章化して他者に示すための、論文の構成のあり方、叙述方法を学ぶ。そしてその学習を踏まえ、課題研究として研究した内容を論文にまとめる。

(2) 研究開発の経緯

4月当初から評論文の要約に取り組み、得られた情報を論理的に表現する方法を学んだ。2学期末には、パラグラフライティングについて理解し、課題研究のレポートを論文の形式にまとめた。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は、獲得した情報を理解し、論理的に考察・分析を進める創造力・理解構成力などの「真理探究力」を促すことができると考えられる。

イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH国語総合

対象生徒 普通科1年生徒 8学級

実施場所 本校 各教室

実施内容

要約

『長文記述問題集読解力習得編』（いいずな書店）記載の評論文・小説の要約論文

- ・論文構成の書き方について学ぶ。
- ・パラグラフライティングを用いた段落構成の在り方について理解する。
- ・パラグラフライティングによって文章を構成する。

ウ 検証（成果と反省）

長文を要約することで、与えられた情報をいかに取捨選択し、論理に一貫性のある文章にするかというトレーニングができた。この過程において、理解という状態と、アウトプットできた状態には大きな懸隔があるということ、生徒たちはよく理解できたようである。

パラグラフライティングについての理解は容易なことであり、このような文章構成がグローバルスタンダードだという認識も持つことができた。しかし、自分が持つ情報をパラグラフライティングで構成して表現するには訓練が必要であり、時間がかかるものである。今回は『私の好きな○○』というタイトルで文章を書かせ、評価したが、段落構成への意識が低く、形式を保てない文章も多々あった。

一方指導する教員側の反省点としては、次の2点があげられる。まず一つ目は教員の経験不足である。パラグラフライティングによる文章構成の経験がないため、十分な指導ができていない。二つ目は、一つ目と関連するが、本校国語科での指導がまだ軌道に乗っていないため、どのようなルーブリックを準備して評価することが効果的であるのかということが手探りの状態だということである。そもそも文章の形式のみを評価するということは不可能であり、内容があって初めて文章は体を成すので、内容と同時に形式を評価するルーブリックが必要になる。

これらの反省点について次年度には積極的に意見交換をし、より良い指導の方法を模索することが必要である。